



今月のお金のミニ知識コーナー「保険編」

いくらのリンゴを買っていますか？②



昨今の物価の上がり方は嘆かわしいですが、皆さんは、少しでもお得に買い物したい節約派ですか？それとも全く興味がない無頓着派でしょうか？

前回は、死亡保障の話をリンゴに例えて、「皆さん1個100円で買えるリンゴを定価かそれ以上の高い値段で売っているスーパーで買っていますか」という話をしました。

保険を「スーパーで買い物する感覚で選ぶと損するかもよ！」という話の続きです。

天国の
おかあさん！



③それっておトクなの？

Bさん48才男性は大手保険会社の契約で、「死亡時500万円のお金が出る」というものに入っています。

月々の支払いは11,800円。65才まで払うと、あとはいつ亡くなっても500万円が遺族にお金が残せるという保障が手に入ります。

30歳の時に契約したので **11,800万円×12か月×35年=約495万円**です。

ここでもう一つ考えて欲しいのは、500万円の保障を495万円で手に入れるのは、はたしてお得なんでしょうか？

「え？そんなの保険なんだし、損しなかったら別にいいじゃないの。」という声も聞こえてきそうですが、本当にそうでしょうか？ここは運用などの金融知識が有るか無いかによります。

この商品の「運用利回り」を計算すると、これ年利0.05%でお金が増えるような場所に置いているということになります。（計算式が知りたい方はお気軽に聞いてください）

ここで皆さんに質問！

この利回りだったら、銀行において死亡保障用に貯金しておくのと、どちらが良いでしょうね？

先月、例えばリンゴの話をしました。少しでも賢くお得にリンゴを買うのは、50円で売っている店を自分で探し出すか、50円で売っている店を知っている人と出会えるか、どちらかです。一般的にリンゴだったら見つけるのはカンタンそうですが、保険だったらどうでしょう？

④感情だけでなく勘定も大事

実は、保険は金融商品です。ここがリンゴを買うように簡単にいかない理由です。

保険とは、人の健康状態や生死にまつわる経済的リスクを軽減したり回避したりするという、とてもユニークな性格を持つ「金融商品」なんです。

不安、怖いという「感情」だけで保険に入ってしまうのではなく、生涯いくら支払うことになるのか計算するという「勘定」もとても大事です。

そして、私が今まで接してきた多くの方が、入院や死亡の時に**どれだけお金がもらえるか**という視点にしか着目していないようです。このもらえる視点しかない方のほとんどは、結果的に全く元が取れない保険に入っている可能性が大きいかもしれません。さて、あなたの契約はどうでしょう？



感情と勘定のバランスが大事です